

2023年11月9日  
公益社団法人日本監査役協会

### 塩谷公朗新会長 就任挨拶

この度、日本監査役協会会長を務めることとなりました塩谷公朗です。1期2年間、当協会を率いてこられた松野会長の後を受けることとなりました。コーポレート・ガバナンスの進展とともに、その担い手である監査役等に対する期待が一段と増し、監査役等のニーズも多様化する中、微力ではございますが、当協会の会長として全力を尽くしたいと考えております。

私は、三井物産株式会社に入社後、会計・税務といったいわゆる経理畑を中心に歩み、執行役員経理部長を務めましたのち2019年6月に常勤監査役となり、この6月に2期目に入ったところです。当協会では、監査役に就任した年の秋から会計委員会の委員となり、2021年に理事に、第50期は副会長と会計委員会委員長を務めさせていただきました。会計委員として、会計監査に関する様々な改革への対応を中心に活動して参ったところですが、今後は、より広い視点から、監査役等の監査全体の品質の向上と当協会の事業全般の充実に向けて務めてまいります。

松野会長の2年間は、総会でもお話がございました通り、コロナ禍の只中から、ウィズコロナ、ポストコロナへ移り変わる中で、いかに当協会の活動、サービス提供を維持するか、さらに、サステナビリティ課題なども含めて監査役等に対する期待の高まりへどう対応するかなど、大変な時期であったかと存じます。

コロナ禍においても着々とすすめられた様々なガバナンス改革、改正会社法の完全施行、会計監査に関する品質管理基準や倫理規則の改正等がありましたが、一つ一つ監査役等の実務への影響を精査し、実務指針等の発信をしつつ、監査役監査実施要領の改訂や、2種

類の新任ガイドの改定、さらには監査基準やひな型の英訳など、これまでの一連の改革に対する指針類の仕上げを敢行されました。特に、国際的にも又我が国においても急速かつ大きな進展があったのはサステナビリティ課題に関する動きです。有価証券報告書へのサステナビリティ情報の記載義務付けにより、開示対応ばかりに注目が集まりがちになるところ、サステナビリティは各社の経営課題そのものであること、そして監査役等はその経営課題への取締役会や執行部の取り組みを監査すべき立場にあることを、協会の内外に向けて、丁寧に発信し続けてくださいました。また、協会外部の委員などにも就き、さらに各種の専門誌への寄稿や講演、他団体との意見交換等に対応するなど、監査役等及び当協会のプレゼンスの維持向上にご貢献いただきました。

改めまして、この2年間当協会を率いて、協会事業の充実にご尽力くださいました松野会長に、心より感謝申し上げます。

新会長として、松野前会長のご業績を引き継ぎ、先ほど総会で報告のありました第51期事業計画に沿って、当協会の運営に当たって参ります。まず、基本方針の冒頭に掲げられております通り、「監査役理念」及び「監査役協会の理念」に立ち戻り、監査役等が役割を十分に発揮できるよう支援してまいります。50周年を機にタグライン「進化するコーポレート・ガバナンスの担い手として」を掲げて活動して参ります。そして、現下の状況を踏まえた監査役等として必要な知識の習得やコーポレート・ガバナンスに関わる広範な知見の獲得を支援し、監査役等の監査の実効性の向上を図って参ります。また、50周年記念事業の展開を通じ、特に社会における監査役等に対する認知の向上や理解の浸透を図り、監査役等を取り巻く環境の向上に努めてまいります。

変化の激しい時代でもありますので、丁寧に、かつスピード感をもって、当協会の事業の充実に向けて、理事並びに監事の方々と共に、誠心誠意取り組んでまいります。皆様の積極的なご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

以上